

往生極楽院天井画

往生極楽院の天井画は、何世紀にもわたって使われてきた植物から抽出した油でできたろうそくの煤によって、今日ではそのほとんどが見えなくなっている。

近くの円融蔵には、平安時代（897～1185 年）に描かれた当初のカラフルなイメージが再現されている。

天井画には極楽浄土が鮮やかな青やオレンジ、ピンクなどの色彩で描かれている。

側板には菩薩が描かれているほか、さらに 10 人が雲上に座り、リュートや太鼓、フルートなどの楽器を演奏している。仏教の教えでは、極楽ではすべての音楽が仏陀の言葉のように聞こえてくるのだという。

正面のパネルにはさらに 8 人の菩薩がすべての願いが聞き届けられるという供養を行っている様子が描かれている。

その頭上には、空を天女が舞い、そのまわりにはマンダラの花の花びらが散り落ちている。これは極楽に咲くという 4 種類の花のうちのひとつである。

往生極楽院、またの名を阿弥陀堂は、986 年に恵心僧都と妹の安養尼父母の菩提のために建てられました。1143 年に再建されました。

内側に凝った装飾が施された変わった形の屋根はひっくり返された船体に似ており、中にそびえる像が収まるように設計されています。